

週刊 タバコの正体

動脈硬化が心臓で起こると“しんきんこうそく心筋梗塞”や“きょうしんしょう狭心症”、脳で起こると“のうそつちゅう脳卒中”や“のうこうそく脳梗塞”になります。どちらも命にかかわる病気である事を紹介してきました。しかし脳や心臓以外でも動脈硬化は起こります。たとえば、手や足の血管が狭くなったり詰まってしまう病気は、下図にあるように“閉塞性動脈硬化症”と呼ばれます。

この病気は手足に十分な酸素や栄養が行き届かなくなるので、軽度のうちは手足がしびれたり冷たく感じられる症状がでます。病状が悪化するにつれて歩くと痛みがでたり、さらには安静時にも痛みが

持続するようになり、最悪の場合は足の一部が壊死するので切断しなければならなくなります。命を守るために足を切断しなければならなくなるのですから、心筋梗塞や脳卒中と同じように大きな病気です。

そして、この病気にかかりやすいのは喫煙者なのです。くり返し伝えてきたとおり、タバコは血管にダメージを与える大きな要因ですからね。

タバコを吸い続けると少しずつ血管が傷ついています、その様子は目に見えないうえに痛みも伴いません。でも、もしかすると足を切断しなければならなくなるなんて・・・想像できますか。

そんな可能性があるタバコに、わざわざ手を出すべきではありません。

産業デザイン科 奥田 恭久

閉塞性動脈硬化症

足の血管の動脈硬化がすすみ、十分な血流が保てなくなる病気

全身の動脈硬化病変の一部

動脈硬化がおこる場所で病名が変わる



脳梗塞



心筋梗塞



閉塞性動脈硬化症

閉塞性動脈硬化症の症状

軽度

手足が冷たい
しびれる
指が青白い



中等度

歩くと痛むが
休めば
再び歩ける



高度

安静時にも痛む
刺すような
痛みが持続



重度

足の一部が壊死
命を守るため
切断



どんな人がなりやすい？



60歳以上、男性
喫煙者に多い